

---

# 真面目にエッセイ「芸能人の作家とライトノベル」

うな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真面目にエッセイ「芸能人の作家とライトノベル」

### 【Nコード】

N3926Y

### 【作者名】

うな

### 【あらすじ】

KAGEROUを主な題材にして趣向の多様化をばちばち考える。

**(前書き)**

既存作品の批判を含みます。耐性のない方はお戻り下さい。

昨年『KAGEROU』という問題作が発表されました。作者は、ペンネームこそ違いますがあのイケメン俳優水嶋ヒロ。ポプラ社小説大賞を受賞し、売上も百万部を突破と、同年に本屋大賞を受賞した『天地明察』を遥かに上回る売上を記録しました。

KAGEROUと言うと、一部の人間の間では完全にネタ扱いです。アマゾンレビューは一時某巨大BBS化し、5の評価をつけておきながら「マウスパットには最高」だの「ゴキブリを叩くならこれ！」だの明らかに埒外のコメントが多数掲載されていました。

正直、私は一人の小説読みとしてKAGEROUは評価に値しないと勝手に思っています。これはきちんと作品を読んだの感想ですが、文学を舐めるなとすら感じました。基本がなっていない、なんてレベルじゃない。文章力……とりわけ比喩表現が兎に角酷い。本来比喩とは複数のミーニングを重ね読者にイメージを喚起させるものなのです。

例えば、女性の肌が白く美しいことを比喩で表現する時に「処女雪のような肌」と描写するとしましよう。「」のような「は直喩を示すものですからこれ自体には然程意味はありません。意味のある要素を分解してみると「処女雪」「肌」の二つに分かれるのは誰だっつてわかるでしょう。

この文章では「処女雪」というイメージを使って「肌」を表現しているわけですが、「処女雪」のイメージってどんなものがあるでしょうか。私が思うに

？単に「雪」のイメージ。冷たく白い儂いもの。

？「処女」という言葉から喚起される清廉なイメージ。潔白さや初な乙女の印象。

大雑把に言つてこの二つを無意識に想像するんじゃないかな、とありきたりな比喻ではありますが「女性の肌が白く美しいこと」を示すのには的外れではない、当たっている比喻だと思います。

あえて問題点を上げるとすれば、「雪」の持つ冷たさのイメージも伴つたため、描写される人物の人情味が若干なりとも失われること儂く脆弱な印象を与えてしまいがちなことぐらいでしょうか。私がこの「処女雪のような肌」という比喻を使うなら、少し浮世離れした病弱な美少女に使いますかね。ついでに物語の舞台は秋か冬の寒くなり始めた頃。夏が舞台の作品でこの描写をするのは、（特別な意図がない限り）手落ちと言われても仕方ない気がします。

さて。小説の基本中の基本である比喻表現。に示したのは私の個人的見解に過ぎませんがその的外れなことは言っていないと思います。

で。KAGEROUにおける比喻表現がどうなっているかということ……自動車がすーっと走り始める時に「フライパンの上を滑るバター」のように車が走り始めた」という比喻を使っています（原作が手元がないので細かな違いはあるでしょうが、だいたいこんな感じですよ）。

この文章を見た瞬間、ああなんも分かってねえな……と失望を覚えたのは私だけでしょうか。「フライパンの上を滑るバター」と「車」に何の関係があるのか私にはさっぱりです。無論、滑らかに走り始めたことは理解できます。けど、それなら「滑るように」で充分です。どうして「フライパンの上のバター」である必要があるのか。車が溶けて液化化してるんですか？ 辺りに香ばしいバターの香りが漂ってるんですか？ そんな疑問が沸々と湧いてくる。

結論から言うと、水嶋ヒロさんは比喩表現がなんたるかを知らずに見よう見まねで「なんか良さげであんまり見ない表現」をしたのでしよう。これは初心者にはよくあることで、そのこと自体が悪いわけではない。少なくともこれから小説を書き始める人にはあつていい傾向だと思う。試行錯誤して比喩感覚を磨くのも小説書きには重要なことです。

ですが、KAGEROUはポプラ社小説大賞を受賞し、ミリオンセールスを突破した作品。素人が身内で作品を持ち寄ったりWeb上で無償公開しているものとはわけが違う。作品として感性してなければならぬですよ。千何百円とお金を取るんですから、少なくともその価値を読者に還元しなければならぬはずなんです。

KAGEROUは言ってしまうと中学生レベルの画力で書かれたマンガです。絵が全てとまでは言いませんが、多くの人にとってマンガの作画は非常に重要なファクターでしょう。『エルフェンリート』などの例外は私自身知ってはいるのですが、このマンガを手放しに評価することができないのと同じように、KAGEROUの評価も文章の段階でかなり難があるのは読書家からしたら一目瞭然なわけなんですな。

ここからが本題。

ではKAGEROUは価値がないのかと言えば決してそんなことはない。小説としてはダメでも水嶋ヒロさんのファングッズとしての付加価値は充分にある。

書いてみると分かるんですけど、小説って思いの外その人の内面を反映するんですよ。だから、KAGEROUを読めば水嶋ヒロさんの内面を深く知ることができる可能性は十分にある。ファンなら垂涎の逸品とすら言っているのかもしれない。

私は俳優としての水嶋ヒロさんは好きです。仮面ライダーカブトの頃から「いい声してんなあー」と思い、彼を鼻屣して見るように

さえしていたと思います。その都合で、KAGEROUも単純な作品としてではなく、彼の内的世界の表出として捉えて勝手にニヤニヤすることもできたわけなんです。芸能人のブログにクオリティを求めないのと一緒に、この辺りはもう完成度なんて関係ないんです。その人のことが知りたいからその人が書いてさえいればいいんです。作者が水嶋ヒロだからいいんです。それ以外はもうどうだっていい。小難しい比喩表現のルールなんて知らないし、ストーリーの独自性なんて興味ない。私が読んでいて気持ちよければいいんだから作品のクオリティとか放っておいてよ。

ところでライトノベルもこういう側面があると思うんです。作者縛りからジャンル・方向性縛りに変わる部分がありますが、今流行しているアダルトゲームを再構成したようなライトノベルは「私が読んでいて気持ちよければいいんだから作品のクオリティとか放っておいてよ」という印象を読者から受けます。

あと、ケータイ小説なんかもそうですね。「恋空」を槍玉に上げてあれやこれやと難癖をつけているのを一昔前はよく見ましたが、それって実はあんまり意味のないことだったと思うんです。恋空を受容している層としてはそんなことどうだっていいんですよ。スイーツ（笑）と言われようが無菌室（爆死）と言われようがそもそも気にしてないんです。「楽しければなんだったっていい」のです。

ここまで書いて、どう結んだものかと若干困っています。「似たような穴のムジナなんだから仲良くしろよ」なんて言うつもりもありませんし、うーん……どうしたものか。

まあ、なんとというか、価値観の多様化って難しいなあ、ってことなんですよかね。

このエッセイを書くきっかけとなった上地雄輔さんの小説（？）

もそのうち出版されるのでしようが、その時冷静に「こういうものはこういう人が喜んで買っている」と思って無為に攻撃しないことが大事なんじゃないかな、と思ったり。

一般人からすれば『まどか マギカ』も気持ち悪いらしいですから、あんまり気にし過ぎても仕方ないんじゃないかな。分かり合えないものは分かり合えないで平和に暮らすのが一番ですよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3926y/>

---

真面目にエッセイ「芸能人の作家とライトノベル」

2011年11月10日07時13分発行